

(別添 2)

No.	1
策定年月	令和3年5月
見直し年月	令和4年2月

麦・大豆産地生産性向上計画 会津若松市 湊地区 原・東田面・堰場産地 (作成主体:会津若松市農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

会津若松市は、約5,900haの水田を有しており、主食用米の作付割合が約6割を占めている。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、需要に応じた生産を推進するため、加工用米・新規需要米等の生産拡大、園芸作物の導入等と併せて、大豆・そば等の土地利用型作物の生産を拡大する取り組みが重要である。

大豆の生産拡大については、集落営農組織や農地所有適格法人において、主食用米からの作付転換により、大規模化や団地化による生産コスト及び労力の低減を推進してきた結果、当該地域においても一定の成果が見られている。この状況を踏まえ、先進的な営農技術の導入による収量・品質の向上及び更なる団地化や作業集積による作業効率化の推進によって、更なる大豆産地の確立を目指していくとともに、集荷業者及び実需者との連携による需要の高い品種の作付け、収益力の向上を図っていく。

現在、本市においては、地域水田収益力強化ビジョンや水田収益力強化ビジョンを踏まえ、水田フル活用による収益力の向上に取り組んでいるが、本計画において、大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに、関係者との連携を強化し、地域農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

当該地域では、集荷業者や醸造業などの実需者との意見交換等を通じて、加工に適した品種である「あやこがね」が非常に引き合いが強いことから、主要な作付け品種となっている。しかしながら、転作田における排水性の課題や近年の異常気象による自然災害によって湿害が発生するほ場も見られる。この湿害の影響を受け、収量・品質への影響が見られており、需要を満たすだけの収量や品質が確保できていない現状にある。

また、収量・加工の両面に優れた「あやこがね」に変わる新たな品種が求められている。

(2) 生産における現状と課題

本市全域における大豆の作付面積は、高齢化に伴う担い手不足の影響と集落営農組織の解散等により、減少傾向で推移しているものの、当該地域においては、担い手への農地集積が進んでおり、ブロックローテーション方式による集団転作の取組により、作付け面積を維持している。また、ブロックローテーションに取り組むことで多少の増減はあるものの、団地化率も8割超の高い水準を維持している。

今後も継続して団地化の推進に取り組んでいくが、近年頻発する台風や大雨などの自然災害の影響により、排水不良が生じ、湿害による収量の減少や品質の低下が見られている。そのため、収量や品質を向上させ、市場競争力の向上を図るために新たな排水対策の実施が課題となっている。

また、特に中山間地域において鳥獣被害が深刻であり、収量減や収穫皆無となる事例が多発しているため、より効果的な鳥獣害対策について検討が必要な状況である。

(3) 実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
小麦										
大麦										
作物計										

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	一括	—	55.3	56.5	—	108	174	—	60	98.2
作物計		—	55.3	56.5	—	108	174	—	60	98.2

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦								
大麦								
作物計								

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	一括	—	—	48.4	87.5%	49.1	86.9%	
作物計		—	—	48.4	87.5%	49.1	86.9%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

福島県では、「団地」は概ね3ha以上(中山間地域では概ね2ha以上)のまとまりとし、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としている。これに基づき、中山間地域である当該地域では、2ha以上を団地として団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。